

令和4年度第13回安塚区地域協議会次第

日時：令和5年2月21日（火）午後6時から

場所：安塚コミュニティプラザ 3階 大会議室

1 開 会

2 会長挨拶

3 報告事項

(1) 雪だるま高原将来計画の概要について

【資料1】

(2) 消防団安塚方面隊の再編について

【資料2】

(3) 地域独自の予算の事業一覧について

【資料3】

4 自主的審議事項

(1) 住みやすい安塚の在り方について（地域活性化の方向性について）

5 その他

(1) 次回開催 令和 年 月 日（ ）午後 時 開会

6 閉 会

2022
↓
2031

雪だるま高原

施設整備活用基本計画 概要

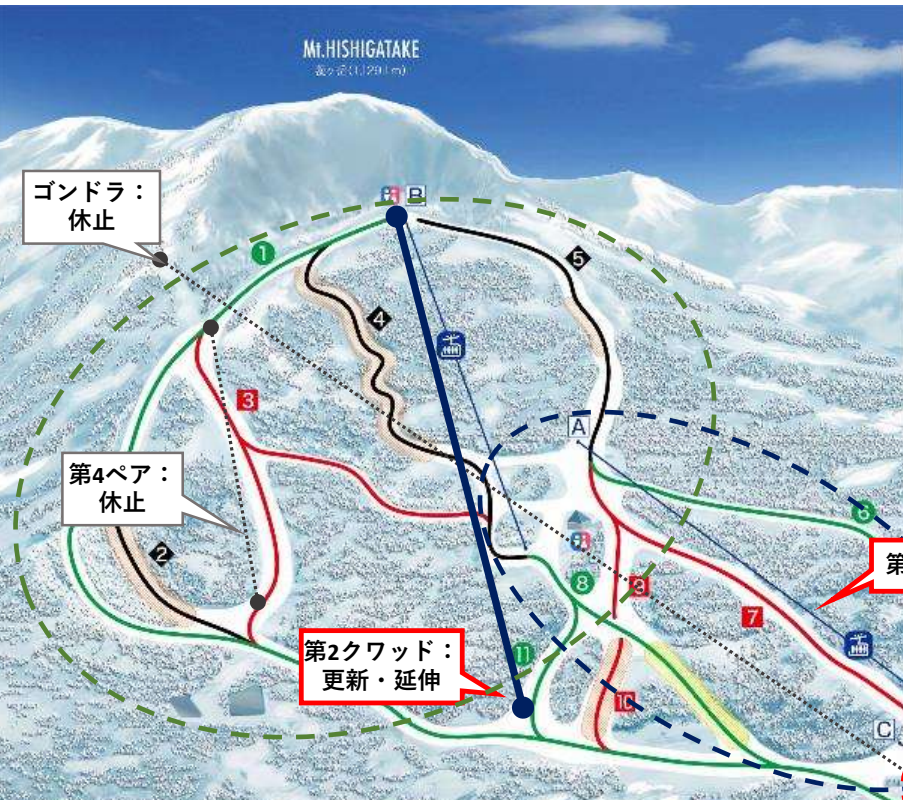


令和5年2月 上越市

計画の目的

- 日本有数の豪雪地帯であり、日本スキー発祥の地である上越市にとって、「雪」や「スキー」は、まさに風土であり、歴史や生活文化を紡いできた根本の存在である。
- 令和3年3月に策定した「上越市公の施設の適正配置計画」（令和3年度～令和12年度）においても、雪だるま高原の中核施設であるキューピットバレイスキー場は「現状維持」と位置付けられており、今後も安全で安心な利用を継続していくために、適切な維持管理と整備を行っていくこととしている。
- 一方で、開設から既に30年以上が経過し施設全般が老朽化する中で、年々上昇する整備費用と市の財政事情の見通しなどから、これまで行ってきたフルスペックの施設利用とサービス提供の在り方を見直す必要に迫られている。
- 今後の社会情勢が不透明な中であっても、長期にわたって持続可能な施設とサービスの在り方を見出して「将来計画」としてまとめ、より効率的、効果的な施設整備の方向性を整理することが、本計画の目的である。
- 計画期間 令和4年度 ～ 令和13年度 （10年間）

基本計画のポイント 雪だるま高原の将来像



目指すべき将来像

『若年層・インバウンドを開拓するスノーリゾート』

集客目標

10万人（スキー場として成り立つ水準）

集客コンセプト

「ファミリー」「若者」「コア層」「インクルーシブ」+「インバウンド」

ゲレンデ満足度の向上

「パウダー」「スタンダード」「ワンダー」の3ゾーン設定

効率的・効果的索道整備

『第2クワッドを更新+延伸』



3つのゾーン設定

- ① パウダーゾーン
(冒険心：若者・コア層)
- ② スタンダードゾーン
(安心感：ファミリー・学校スキー)
- ③ ワンダーゾーン
(遊び心：ファミリー・インバウンド)



エリア全体の魅力度向上
『スノーリゾートを構成する
センターハウス・ビレッジ・
温泉等の計画的整備』

新第2リフトは、令和7年シーズンに登場予定！

第1章

雪だるま高原施設の成り立ちと現状



キューピットバレイスキー場 平成2年12月オープン

- ▽コース
初心者から上級者向け7コース
(最長4キロのダウンヒル最大斜度32度)
- ▽リフト
ゴンドラ 1基 (6人乗り) 全長2,900m
第1クワッド (4人乗り) 全長1,600m
第2クワッド (4人乗り) 全長1,000m
第3ペア (2人乗り) 全長500m
第4ペア (2人乗り) 全長700m
※ゴンドラ・第4ペアは休止中
- ▽センターハウス

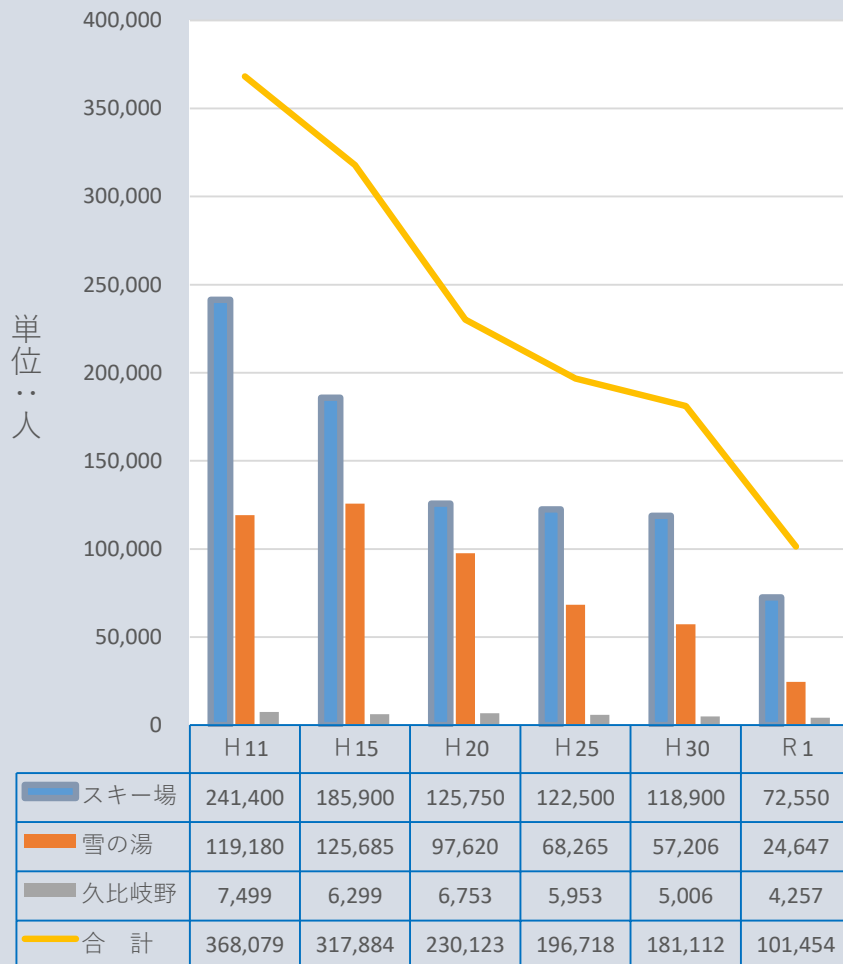
宿泊施設・温泉など

- ▽キューピットビレッジ
19棟50室 ログハウスのホテル
- ▽ゆきだるま温泉 平成4年オープン
久比岐野 (宿泊・日帰り)
雪の湯 (廃止)
- ▽棚田動植物公園 キャンプ場

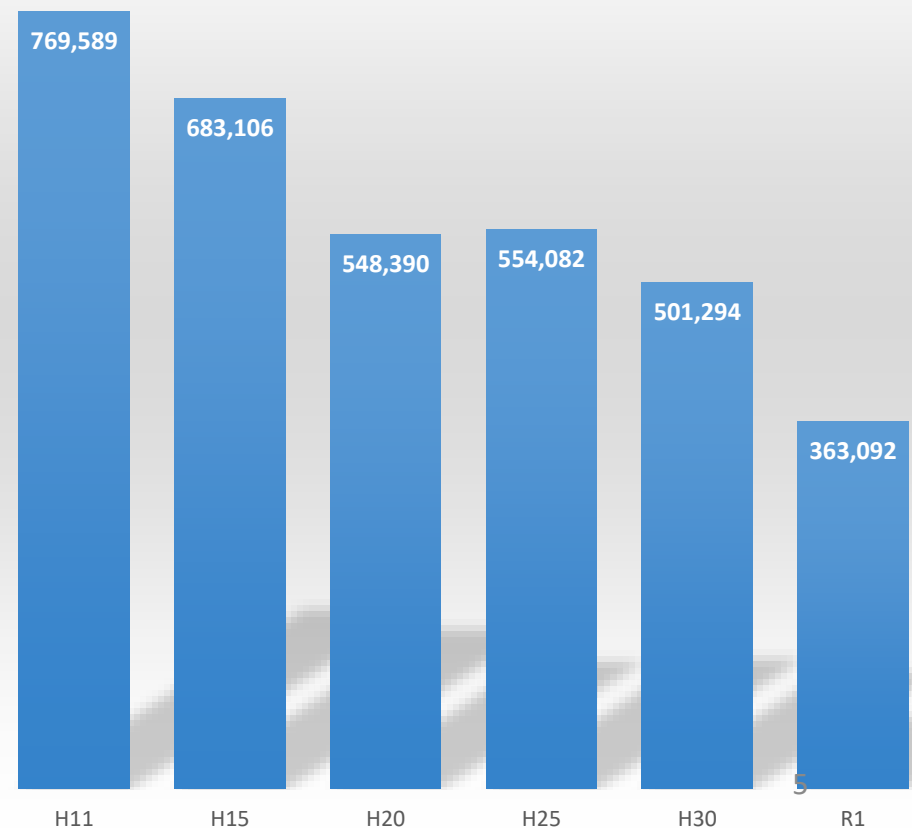
利用状況と売上総額の推移

年間利用者数は、ピークから5割減少。（R1は除く） 売上規模は、ピークから3割以上減少。

雪だるま高原施設 利用状況



売上総額 (単位：千円)



雪だるま高原施設 活用の方向性

上越市公の施設の適正配置計画（令和2年度策定）による位置づけ



キューピットバレイスキー場は「継続すべき施設」

施設名	施設 カテゴリー	今後の 方向性	説明	完了 年度
キューピットバレイ スキー場	観光施設	現状維持		—
ゆきだるま温泉 雪の湯	日帰り温浴 施設	廃止	施設全般に老朽化が激しく、 隣接する「久比岐野」に日帰 り温浴機能を集約し廃止する	令和 3年度
菱ヶ岳グリーン パーク	キャンプ場	廃止	棚田動植物公園のキャンプ場 で代替する	令和 3年度

上越市公の施設の長寿命化計画（基本方針）



計画的な維持管理・予防保全によるトータルコストの縮減

索道施設 ⇒ 更新時期を見据えた マスタープランが必要

キューピットゴンドラ（ネージュ）

1990年（平成2年）建設。令和2年シーズン休止

スキー場の
シンボル
3,000m

施設の維持・更新には非常に大きな費用が見込まれる。

第1クワッドリフト

1990年（平成2年）建設。主要設備を更新済み

メイン
高速リフト
1,600m

第2クワッドリフト

1990年（平成2年）建設。更新判断時期
(直近で大規模改修必要)

上部エリア
高速リフト
1,000m

第3ペアリフト

ベースエリア 500m

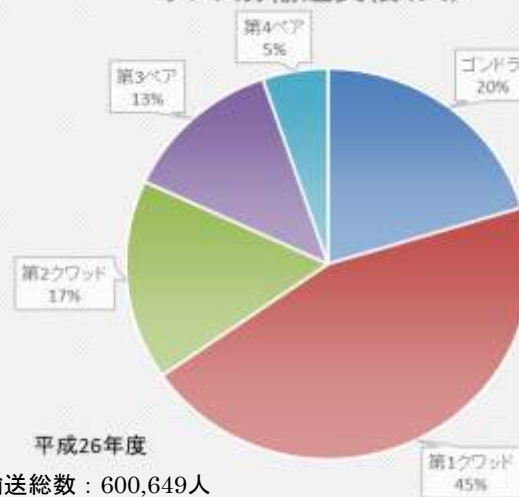
第4ペアリフト

上部エリア 700m

1995年（平成7年）建設。

※ 固定リフト。整備費は、ゴンドラ・高速リフトより低廉
利用率低迷のため、第4ペアは休止中

リフト別輸送実績(人)



雪だるま高原の中長期戦略目標

若者・インバウンドを獲得する『スノーリゾート』

- 「日本のスキー発祥の地」から発信する
スキーやスノーボードだけでなく「誰でも雪を楽しめる」
新しいスノーリゾートスタイルの実現

- ・最大の資源は豊富な天然雪
- ・持続的安定経営に索道施設の適正配置が必須
- ・安心感と冒険心を満たすバックカントリー
- ・スキー・スノーボード人口から「スノーリゾート人口」の拡大へ
- ・「誰でも雪は楽しめる」ユニバーサルフィールドの実現
- ・施設の魅力と地域資源をフル活用してインバウンド受入れの基盤を強化



← 障がい者スキー

↓ ビレッジ



第3章

利用拡大に向けた戦略展開と 集客目標の設定

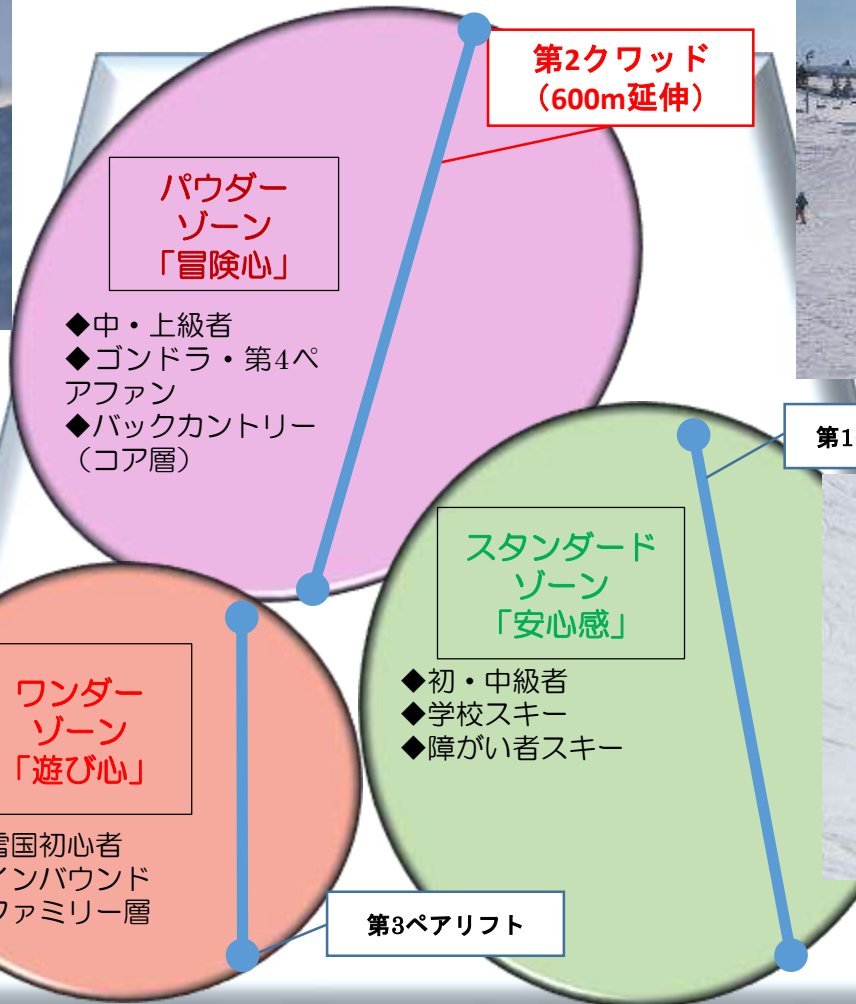
ゲレンデ満足度の向上を図るゾーニング・効率的な索道施設等の整備



パウダーゾーン



大人のそり遊び



センターゲレンデ



第1クウッド

障がい者スキーの提案

集客数及び売上目標設定

現状

選択肢

スキー場集客エリア

・客層への影響

スキー場集客目標

への影響

来場者数
60,000人

- リフト運行
- ・第1クワッド
- ・第2クワッド
- ・第3ペア
- ▲ Gondola運休
⇒2万人減
- ▲ 第4ペア運休
⇒1万人減
- ▲ シーズン会員
2,800人⇒1,170人
- 市内・近隣市町村から大部分集客

①プラン 第2クワッドを
更新・延伸する。

若者・インバウンド獲得

②プラン 第4ペアリフト
を再開する。

4ペアファンの復活

③プラン 現状の3本のリ
フトのまま。

市民・近隣重視

【客層】

パウダー愛好者層の拡大

【エリア】

北陸・関東圏・インバウンド

【客層】

第4ペアファンの復活。

【エリア】

県内

【客層】

ファミリー層中心

【エリア】

上越市・柏崎市

10万人に復活

○延伸効果 25,000人

○リブランド効果 7,000人

○多角化による効果8,000人

7万人強で頭打ち

○バックカントリー 5,000人

○多角化による効果 8,000人

▲シーズン会員減影響 5,000人

7万人に届かず、現状維持

○多角化による効果 5,500人

○外部要因 8,000人

▲シーズン会員減影響 6,500人

第4章

施設区分別整備計画

索道計画



ゴンドラ ネージュ

○シンボリックであるが、整備・運行コストが大きい
「ゴンドラ・ネージュ」

↓

【ゴンドラを休止。その影響は】

- 輸送能力とコース利便性の低下
- 中上級者の第1クウッドへの乗車集中による混雑の発生
- シーズン会員の減少

エリア集客減少 2万人



令和3年3月の日曜日
第1クウッドにリフト待ちの
長蛇の列が発生した

○ゴンドラなしでも
 少ないリフトで
 多くのコースに
 アクセス。
 効率的で満足度の
 高い索道配置へ

↓

- 第2クウッドを
 ソレイユコース接続
 まで延伸することで
 コースレイアウトが
 大きく改善



第2クワッド架け替え プラス600m延伸の効果

●輸送能力を生かしたゲレンデレイアウトの実現



○ゲレンデ上部と下部でゾーニング可能

- ・ゴンドラ利用者層を第1・第2クワッドでカバー
 - ・**第4ペアリフトを再開しなくてもパウダーゾーン愛好者をカバー**
- ⇒索道運行コストの軽減とゲレンデ魅力度の向上を両立
- 集客目標 10万人**

新第2リフト建設事業の概要

ゴンドラ・第4ペアを休止 ⇒ 第2クワッド更新＋延伸でカバー

- 効果**
- ①ダウンサイジング・運行コストの軽減（現状リフト5本 ⇒ 3本）
 - ②維持・管理費の軽減（既存第2クワッドは、部品等に汎用性が無く維持費が割高。経年劣化により、施設全体の大規模改修が必要）
 - ③ゲレンデの利便性・効率性と魅力度の向上
 - ④市財政負担の軽減（過疎債活用等による一般財源の圧縮）

新第2リフトの主な仕様

リフト長	1,600m（現状は1,000m）
索道種類	特殊索道（ゴンドラは普通索道）
索道方式	単線自動循環式高速リフト
搬器定員	4人以上（現状は4人）
事業費（概算）	15億3,450万円（税込） （事業費全体に過疎債を充当）
工事期間	3年（R5～R7）



宿泊施設（ビレッジ・久比岐野） センターハウスほか付帯施設の整備

キューピットビレッジ



夏季のグランピング・バンガロー（中期）など利用方法と室（棟）数の見直し。



センターハウス・レストラン



ゆきだるま温泉 久比岐野



日帰り入浴対応のため、令和2年度に整備された新館浴室

多彩なメンバーによる 計画検討委員会

委員長 : 飯塚 徹
副委員長 : 後藤 幸泰
委員 : 石川 俊哉
: 白倉 文三
: 八木 達也
: 小田 基史
: 上羽 亮

松本大学松商短期大学部経営情報学科 教授

北陸信越山岳観光索道協会新潟地区部会副部会長

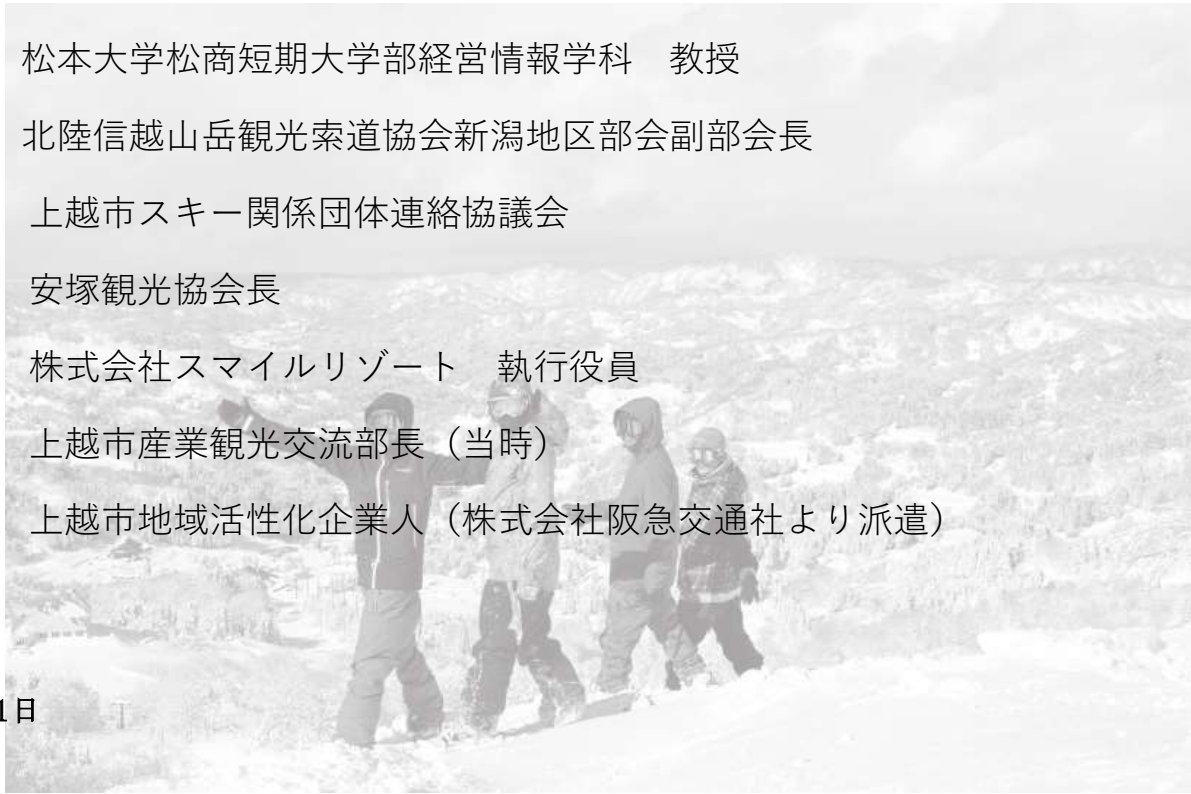
上越市スキー関係団体連絡協議会

安塚観光協会会長

株式会社スマイルリゾート 執行役員

上越市産業観光交流部長（当時）

上越市地域活性化企業人（株式会社阪急交通社より派遣）



任 期 令和3年12月21日～令和4年3月31日
〈会議開催〉
第1回委員会 令和3年12月21日（火）
第2回委員会 令和4年 1月26日（水）
第3回委員会 書面確認

消防団安塚方面隊の再編について（報告）

＜再編の目的＞

令和 5 年 4 月 1 日から、現状において単独での活動が困難な消防部や、将来的に団員減少により同様の事態が危惧される消防部を統合し、安塚区の広いエリアで消防の空白地帯が生じないように、各分団を 1 消防部体制に再編することにより、地域の消防力を維持します。

		再編前	再編後（令和 5 年 4 月 1 日以降）		管轄町内会
分団	消防部		消防部		
安塚 (69 人)	安塚	安塚消防器具置場（消防ポンプ車）	安塚 (61 人)	安塚消防器具置場（消防ポンプ車）	安塚、牧野、上方、 本郷、石橋、板尾、 松崎、坊金、細野
		上方消防器具置場		上方消防器具置場	
	石橋消防器具置場（消防積載車）	石橋消防器具置場（消防積載車）			
	松崎	松崎消防器具置場		松崎消防器具置場	
	中川	坊金消防器具置場（消防積載車）		坊金消防器具置場（消防積載車）	
		細野消防器具置場			
小黒 (34 人)	和田	和田消防器具置場（消防積載車）	和田 (30 人)	和田消防器具置場（消防積載車）	おぐろ、和田、菅 沼
		大原消防器具置場（消防積載車）		小黒消防器具置場（消防積載車）	
	行野消防器具置場	切越消防器具置場			
	小黒	小黒消防器具置場（消防積載車）		朴の木消防器具置場	
		朴の木消防器具置場			
菱里 (44 人)	豊坂	高沢消防器具置場（消防積載車）	菱里 (25 人)	高沢消防器具置場（消防積載車）	樽田、円平坊、高 沢、二本木、信濃 坂、おぎの、須川、 上船、中船 樽田 川
	荻野	真荻平消防器具置場（消防積載車）		須川消防器具置場（消防積載車）	
	須川	須川消防器具置場（消防積載車）		樽田川消防器具置場	
	船倉	樽田川消防器具置場（消防積載車）			

※令和 5 年の団員数は予定

○今後の予定

- ・ 3 月下旬 積載車及び可搬消防ポンプの配置換え
- ・ 3 月 25 日 町内会文書により全戸へ周知予定

令和5年度地域独自の予算 安塚区事業一覧表

※提案団体が実施主体と同一の場合は、「提案団体」欄に「－」を記載している。

区名	事業名	実施主体	提案団体	予算額 (千円)	事業の目的	事業内容
安塚区			計 3件	2,529		
1	山のうへの雪まつり事業	山のうへの雪まつり実行委員会	－	950	地域住民自らのアイデアと行動により、安塚区の中核的な拠点施設であるキューピットバレイスキー場を活用することで交流人口の増加を目指し、地域の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・雪上花火 ・山のうえトリアスロン ・雪屋台での飲食店出店 ・ゲレンデの中心で〇〇を叫ぶ ・雪像づくり、キャンドル点灯 ・スカイランタン ・山のうへの酒まつり
2	山のうえ真夏の雪まつり事業	山のうへの雪まつり実行委員会	－	939	地域住民自らのアイデアと行動により、安塚区の中核的な拠点施設であるキューピットバレイスキー場を活用することで交流人口の増加を目指し、地域の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・雪山の創出（雪室の雪を活用） ・真夏の雪合戦（雪室の雪を活用） ・テントサウナ体験 ・山のうへのつながる市
3	やすづか「小さな祭り」開催事業	特定非営利活動法人NPO雪のふるさと安塚	－	640	地域住民自らのアイデアと行動により、安塚区の「食」と「雪」がそろった「雪だるま物産館」、「ユキノハコ」を活用する。自力でイベントや事業を行うことが困難になってきている区内の様々な活動団体が互いに協力し合い本取組を実施することで、活動団体の意欲向上と地域の魅力発信に寄与する。	<ul style="list-style-type: none"> ・工芸体験 ・花とアートの展示 ・ノルディックウォーキング体験 ・ウォークラリー ・写真・花壇コンテスト
注) 令和5年度予算は、令和5年第2回（3月）上越市議会定例会での議決をもって成立します。						